

授業科目名	人間教育学ゼミナール（応用）(2100310)		
時間割名	人間教育学ゼミナール（応用）(15106)		
時間割担当	伊崎一夫		
実施期	通年	単位数	4 必修 選択
曜日・時限	月・5		

授業の目標・概要

卒業研究に向けて論文や制作活動を行う。自らの専門分野についての研究をまとめ、形にすることによって、自らの人間教育学に関する学びの集大成とする。自らが深めていきたい専門領域を決め、これまでに身につけたアカデミックスキルを生かし、主体的に専門分野の文献や先行論文等によって見識を深めていく。必要に応じて、教育実践現場の見学や交流などを行う。

学習の到達目標

- ・「つけたい言葉の力」の育成に関わる広範な分野を包含しながら研究をすすめる。
- ・学校現場の課題を知り、学級経営や実際の授業展開の工夫を学ぶ。
- ・グループ討議や相互批評を通して、個々のテーマを発表し、改善する。

授業方法・形式

- ・それぞれの研究テーマに対して、補助資料を活用しながら学習をまとめる。
- ・それぞれの学修経過、研究成果をまとめ、適宜、発表・討議する機会を設けながら学修を深める。

授業計画

- 第1回 ガイダンス：「人間教育学ゼミナール」の意義と目標
- 第2回 ガイダンス：目標設定と研究計画
- 第3回～5回 研究計画に基づく情報収集
- 第6回～8回 研究計画に基づく情報整理
- 第9回～11回 研究計画に基づく情報精査と概要作成
- 第12回～15回 概要発表・意見交流による研究計画・内容等の再検討
- 第16回～17回 研究計画に対する指導・助言
- 第18回～22回 再構築した研究計画に基づく研究論文等の作成
- 第23回～25回 研究成果発表・意見交流
- 第26回～28回 研究成果・意見交流に基づくゼミ資料作成
- 第29回～30回 1年間の学修成果の集約

成績評価の基準

研究発表・意見交流等における資料の完成度、積極的な授業参加等を総合的に評価する。

準備学習・復習及び授

- ・これからの学校教育や教師のありかた等について、日常的に見識を深めること。
- ・学校教育の現代的課題や、教員としての資質向上に資する文献を継続的に読み深めること。

履修上のアドバイス及

- ・教育の現代的課題に興味関心を持ち、幅広く継続的に学修を深めていくことを心がけてほしい。

教材・教科書

必要に応じて指示する。

参考書

必要に応じて指示する。